

農業生産と洪水被害軽減を両立できる「田んぼダム」

生産

実装

品目: 水稻

気象災害の回避

概要

開発した田んぼダム用器具を用いることで、水稻の生育や収量に影響を及ぼすことなく、手軽に降雨時の水田流出量を抑制できる。水田を「田んぼダム」として積極的に活用することで、下流域の浸水被害を軽減し、豪雨時の洪水被害軽減に貢献できる。

背景・効果・留意点

近年増加する水害対策として、水田に一時的に雨水を貯留する田んぼダムが注目されている。田んぼダムは水田を活用するため、農家の不安を解消し理解を得ることが何より重要となる。そこで、水稻の冠水被害の特徴を明らかにし(図1)、水稻生育中も洪水被害を軽減する田んぼダムの機能を示した。同時に、多数ある田んぼダム用器具のバリエーションの一つとして、水田への取り付けが容易な堰板タイプの調整板を開発した(図2)。

現地水田で実証試験を行った結果、本器具によって大雨時に水田貯留機能を強化できることが確認できた(図3)。田んぼダムは、広い範囲で取り組むと、より大きな効果が期待できる。

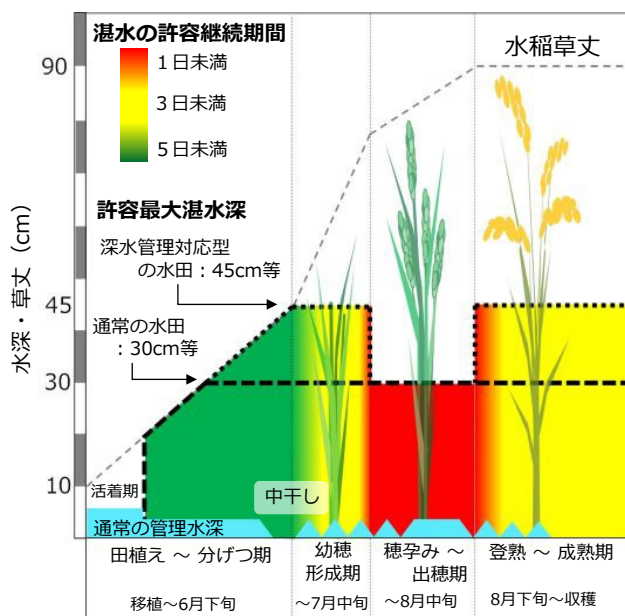


図1 水稻生育時期と許容湛水

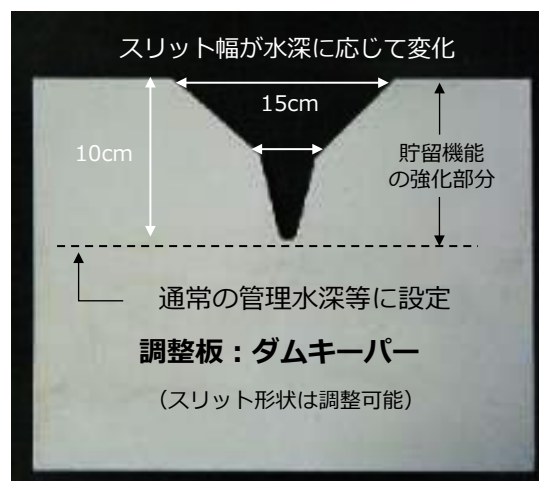


図2 開発した田んぼダム用器具(水位調整板)の構造(例)

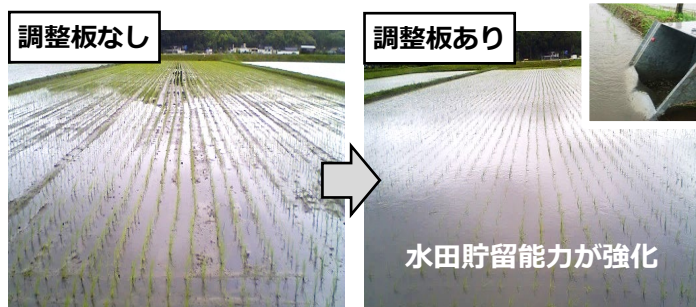


図3 田んぼダムの実証事例(豪雨直後)

技術の詳細



https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nire/136187.html

問い合わせ
greenasia-ml@jircas.go.jp

国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構

